

台風12号に伴う日吉ダム^{ひよし}の防災操作について

～本年4回目の防災操作を実施～

台風12号の影響により、淀川水系桂川の日吉ダム^{ひよし}（南丹市日吉町^{なんたんしひよしちょう}）上流域では、降り始めの9月2日10時から9月5日8時までの総雨量が220mmに達し、ダムへの最大流入量は毎秒約400m³を記録しました。

日吉ダムでは、本年4回目となる防災操作を実施し、ダムから下流河川に流す水の量を少なくするため、最大毎秒約250m³をダムに貯留し、京セラドーム6杯分に相当する合計約717万m³の流水をダム貯水池に貯め込みました。

日吉ダムの防災操作によりダム下流の桂川保津橋地点^{ほづばし}においては、約53cmの河川水位の低減効果があったものと推定されます。

ダムがなかった場合には、保津橋地点における河川水位ははん濫注意水位（3.30m）を約8時間超えていたものと想定されますが、日吉ダムの防災操作により、保津橋地点の河川水位をはん濫注意水位より低く抑えることができました。

今回の出水により、67.4%まで低下していた貯水率（9月2日 ダムの水位EL.174.67m）も満水まで回復しました。

※ [防災操作とは] 大雨などの際、流れ込む水の一部をダムに一時的に溜め込むことでダムから下流へ流す量を減らし、下流の川の水位を低減させることです。

※ [保津橋地点とは] 亀岡市保津町下中島地先（保津川下り乗船場付近）です。

※ 今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成23年9月5日



独立行政法人 水資源機構^{みづしげんきこう} 日吉ダム管理所^{ひよし}

発表記者クラブ

京都府政記者室
南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 淀川ダム統合管理事務所

副所長 橋本 和夫（はしもとかずお）

電話：072-856-3131（代表）

独立行政法人水資源機構 日吉ダム管理所

所長代理 後藤 孝（ごとうたかし）

電話：0771-72-0171（代表）

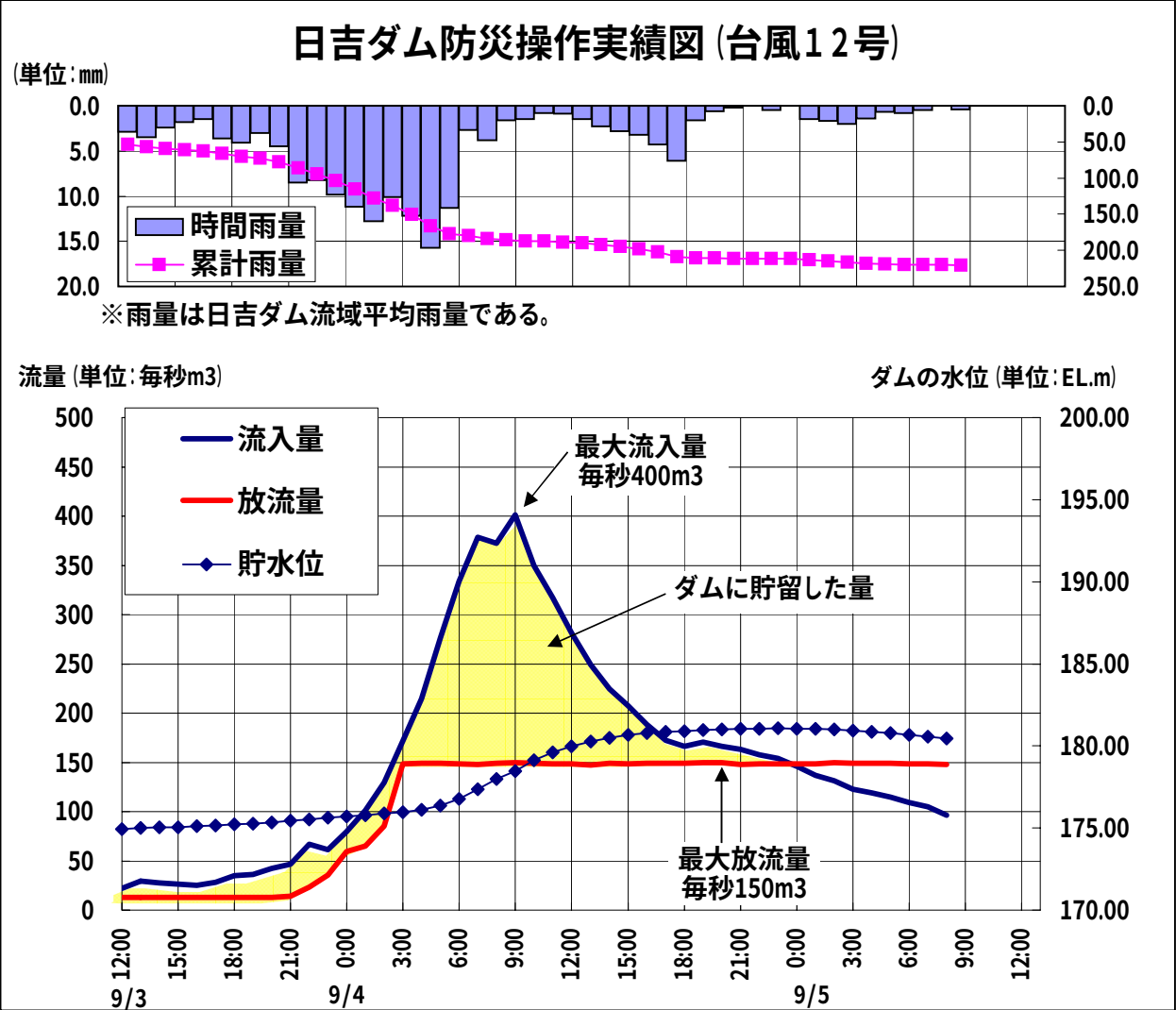
■ 淀川水系と日吉ダム流域



日吉ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、
ダムの効果発現に努めて参ります。

台風12号の降雨に伴う日吉ダム防災操作について

・今年4回目の防災操作



平成23年洪水の記録

区分	流域平均総雨量 (mm)	ダムへの最大流入量 (毎秒m3)	ダムからの最大放流量 (毎秒m3)
平成23年5月 前線	165	390	150
平成23年5月 台風2号	178	355	150
平成23年7月 台風6号	202	320	150
平成23年9月 台風12号	221	400	150

※平成23年9月台風12号による流域平均総雨量は、平成23年9月2日～平成23年9月5日8時までの累計

管理開始以降の洪水記録 (流入量の最大)

区分	流域平均総雨量 (mm)	ダムへの最大流入量 (毎秒m3)	ダムからの最大放流量 (毎秒m3)
平成16年10月 台風23号	238	856	150

日吉ダム防災操作により桂川下流の河川水位を低減！

大型の台風12号は、高知県東部に上陸した後、ゆっくりした速さで北上して各地に大雨をもたらしました。この台風の影響により、日吉ダムでは9月3日から桂川の流量が増大し、本年4回目の防災操作を実施しました。日吉ダム防災操作では、ダムに流れ込む水の量より少ない量（毎秒400m³→150m³）を放流することによって、京セラドーム約6杯分に相当する水をダムに貯め込み、桂川（保津橋地点）の水位上昇を約53cm低く抑えました。

京セラドーム※約6杯分に相当する水を日吉ダムにため込み、少ない量を放流することでダム下流の河川の水位上昇を抑えました。（※京セラドームの容量を120万m³として算出）



保津橋地点（保津川下り乗船場付近）での水位低減効果

